

## 報徳神社（岡田良一郎本家跡）

安政元年、二宮尊徳の門に入り、四大門人の一人といわれている岡田良一郎(1839～1915)の本家跡。

昭和 37 年掛川市倉真の岡田家が他に移ることになり、屋敷跡地 1 0 8 9 坪が、大日本報徳社に寄贈されました。

神社は、ユニークな形のコンクリート製で、二宮尊徳と岡田佐平治・良一郎父子が祀ってあります。

## 掛川城

室町時代、駿河の守護大名今川氏が遠江進出を狙い、家臣の朝比奈氏に命じて築城させたのが掛川城のはじまりです。戦国時代には、山内一豊が城主として 10 年間在城。働き盛りの一豊は大規模な城郭修築を行い、天守閣大手門を建設すると共に、城下町の整備や大井川の治水工事などに力を注ぎました。掛川は、一豊の人生にとって大きな意味をもつ土地であり、高知城は掛川城を模して作られたとも伝えられています。その美しさから「東海の名城」とうたわれました。平成 6 年 4 月、当時の美しさをそのままに、本格木造天守閣として復元されました。



## 大日本報徳社



大日本報徳社とは、二宮尊徳の弟子である岡田佐平治が設立した「遠江国報徳社」を起源とし、「報徳思想」の普及活動などを行っています。

大講堂は、明治 36 年(1903)に報徳の教えを研鑽する大道場として建設されました。約 100 年を経て老朽化したことから、平成 16 年 10 月から修復工事が行わ

れ、平成 19 年 12 月に竣工しました。また、平成 21 年に国の重要文化財に指定された大講堂のほかに仰徳記念館や冀北学舎など明治期の報徳運動を伝える貴重な建造物が保存されています。